

野洲市教育研究所展と第2回野洲市教育研究所運営協議会

2月17日から22日まで野洲図書館のギャラリーで野洲市教育研究所展を開催しました。図書館の休館日を除く5日間で115名の方に参観いただきました。

その割合は、教職員の方が平日勤務で来館できないこともあり、一般の方が8割ほどです。展示の中で、特に興味を持って見られるのは、「各校園の活動の様子（写真）」、「教科書」、「まなび野洲検定」です。中には1時間ほどかけてじっくり見られる方もおられました。

アンケートに以下のような、感想をいただきました。

- ・各園・学校の活動の様子が分かり、大変良かった。
- ・写真入りの展示物・資料が多くて展覧しやすかった。
- ・教科書は大人になって見るとおもしろいですね。
- ・まなび野洲検定は、夏休みに取り組めていいですね。
- ・調査研究コーナーにはびっくりしました。
- ・先生方の仕事で知らないことが分かってよかった。
- ・いろいろな方に見てもらえる展示は、魅力的でいいですね。
- ・先生方の仕事で知らないことが分かってよかった。
- ・毎年企画してください。



所展の最終日の22日に各校代表、園代表及び学校運営協議会委員代表、PTA代表、そして県総合教育センターの次長に参加いただき、運営協議会を開催しました。今年度の活動報告と次年度の活動計画を説明しました。こちらも以下のような暖かなご意見・感想をいただきました。

- ・就学前教育研修では、保育アドバイザーが、日々、2年目の保育者に指導して下さることや、現場に足を運んで、2年目の保育者以外の保育も見てくださり具体的に指導して下さるのがありがたかった。
- ・5年目スキルアップ研修は、授業参観や座談会など、じっくりと向き合ってください、5年目教員の、年間を通しての成長が見られてとてもありがたかった。校内の教員も授業を参観するようにし、学ぶことができた。研究授業をし、仮説を検証し、成果をまとめていく中で、授業の力量が上がっていく様子が見られてよかった。対象者が自信をもってこの研修を終えることができた。この先、野洲を背負う人材に育っているということを感じる。丁寧に研修していただいたおかげだ。
- ・論文の書き方講座に参加した。教員が自分の研究する授業の指針となるものでよかった。
- ・まなび野洲検定は、年々児童らに浸透してきており、意欲的に取り組んでいる児童も多く、大変魅力的でよい取り組みであり、今後も継続を望む。
- ・学校や園の先生方が熱心に研修を受けていることがよく分かった。そのおかげで子どもたちが楽しく学校や園に通えているのだと思う。役員をして初めて知ったことも多く、先生方には感謝の気持ちがあり、保護者の側から学校や園のために何かできるといいなと思った。

各校園・関係者の皆様のご協力・ご支援あつての所展・運営協議会でしたが、市民の方にも各校園の取り組みやがんばりを見ていただけて良かったと思います。

ありがとうございました。



次年度に向けて 教師の授業づくり one point

「一問一答」形式の授業は避けましょう。

発問→挙手→指名→正答なら、すぐ取り上げてそのまま進める。

これは、できる子中心の授業で、分からない子どもにとってつらい、いたたまれない授業です。唯一行ってよい場合は、「どうしても時間がないとき」「誰もが分かる易しい発問」のみです。

必ず、その正否を他の子どもにも問い、広げましょう。（他の子どもは違う回答や考えを持っています）

また、挙手によらない発表も必要です。（多様な考えを広げるためにノートの内容を確認して指名したり、グループ代表として他者の意見も踏まえて発表させたりするなど発言の機会を増やしましょう）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業づくりを心掛けたいものです。

年度末に

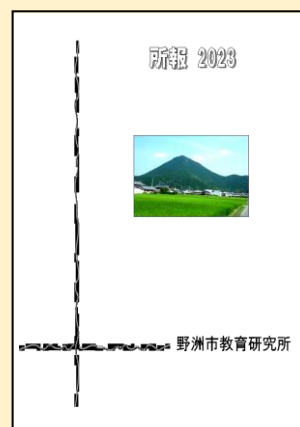
教育研究所では、毎年、諸事業をまとめており、今年度も「所報2023」を作成しています。

各校園の研究や研究奨励事業受賞の先生方の研究紀要も掲載しています。

3月中に、校園に配付します。ご一読いただき、ご感想やご助言をいただければと思います。また、次年度、何らかの参考にしていただければ幸いです

本年度は本所の事業へのご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございました。

来年度もよろしくお願いいたします。



まなび野洲チャレンジ！

正しい答えの番号はどれでしょう。答えは次ページの最下段に載せています。

江戸時代に、役人が不正をして、多くの米を村人に納めさせようとした。それに対して4万人の村人が集まって天保一揆を起し、その一揆を成功させました。

以後、江戸幕府は、村人たちの一揆を恐れて検地が行えなくなり、やがて力を失い、この天保一揆から25年後に滅亡しました。

全国で起こった天保一揆は、長く続いた武士中心の世の中を滅ぼす要因になりました。郷土野洲における一番の指導者であった〇〇は、人のため、世のために正義を貫き、農民の願いを訴えるため命の限り生き抜きました。



《三上小学校にある像》

野洲出身の、この一揆の指導者であった〇〇はだれですか？

①大塩平八郎

②本居宣長

③大岡利右衛門

④土川平兵衛

おすすめの一冊

「日本教育新聞」書評等より



『校長先生、幸せですか?』

住田 昌治 著
出版社 教育開発研究所

「校長先生、幸せですか?」と尋ねられたら、なんとお答えになるでしょうか。

「はい、幸せですよ」と言い切れる校長先生は、どれくらいいらっしゃるのでしょうか。多様な保護者、子どもたち、教職員がいるなかで、校長先生には多くのプレッシャーがかかり、孤独を感じていらっしゃるかもしれません。

ですが、校長先生の「幸せ」は、校長先生自身にとってはもちろんのこと、教職員、子どもたち、保護者など学校全体の「幸せ」にかかわります。

校長先生が「こうあらねば」に縛られていては、「幸せ」になれません。

では、どうすればよいのでしょうか?

本書にそのヒントがあります。

すべての校長先生が「幸せ」になるために、住田先生からのメッセージです。

『教師の学びとライフヒストリー』

若き8人の学びの軌跡』

姫野 完治 著
出版社 一荃書房

教師の学びと ライフヒストリー

若き8人の学びの軌跡

姫野完治

秋田大学へ入学してきた学生たちが、大学を卒業して教壇に立つ中で、どのような紆余曲折を経て成長・発達したのかを、年1回の継続的なインタビューによってまとめたものです。卒業後10年間の一人一人の学びや成長・発達のプロセスに光が当たっており、これからの教師教育を考える上で貴重な調査研究です。

8人のヒストリーから、一般化はできないものの教師として学ぶ上での重要なものとして、

- ・「初任期の支援の在り方」
- ・「環境の変化に合わせて微修正できる学び」
- ・「コミュニティ内で教科の専門性とは別の強みの発揮」
- ・「集団を機能させるマッチング」
- ・「インフォーマルな職業規範や教師文化への対応」

などが浮かび上がります。

そして、学びを持続させるカギとして、

- ・「共創に巻き込み・巻き込まれるマインドセット」
- ・「成長観・教師エージェンシーを身に付けること」が大切になるといいます。